



伝承300年の高森神楽を未来へつなげる

岡方第二小学校

1300年の歴史 高森の丘の薬師堂

日本と唐（中国）との交流がさかんな時代、中国の僧侶を乗せた船が嵐にあいました。その船が着いた場所が高森だったので。僧侶は持ってきた薬師如来様を高森にまつりました。永元年（1704）高森薬師如来の再興のため、京都の仏師 辰巳蔵之助に薬師如来と他14体の仏像の制作を依頼し、翌年入仏供養が行われました。高森の神楽は、この際、辰巳蔵之助より伝授され、入仏供養で奉納されたといわれています。頂上にある薬師堂の脇には展望台があり、阿賀野川を一望できます。



春

高森いざや神楽の春夏秋冬



神楽は、神様を喜ばせ、感謝するために舞います。

高森神社の舞殿に全校が集まりました。

高森のお祭りは春（5月7～9日）と秋（10月7日～9日）に行われ、毎年5月9日と10月9日にはこの神楽舞いが高森稲荷神社に奉納されます。どちらもお昼頃に舞います。高森神楽保存会の皆様の迫力ある舞に続いて、神楽を習っている子どもが舞を披露します。私たちは、全校で見に行き、祭りに参加します。仲間が一生懸命に舞う姿を見て、自分のこれからの舞の手本にしています。なぜ8日を中日に？それは薬師様の月命日だからです。

夏



神楽保存会の品田広さんから笛や太鼓も習っています。



僕は、今年の天狗になれて嬉しかったです。天狗は八つ手の葉っぱを持ってみんなを神社まで先導します。天狗が合図をした場所で止まって舞を踊ります。

平成22年から毎年運動会で神楽舞を披露しています。全10巻の中の1巻「舞込」という演目です。

秋



保存会の皆さんからは、年に12回指導に来ていただきました。



口上を全校で言います。「そもそも剣と剣との始まりはいざなぎいざなみの尊よりしょうしょう…」訳すと、「四ツ剣舞の始まりは、日本の古い神様が病気や悪を退治するために戦ってくれることを表しています。」ということです。3年生で集中的に覚えていきます。

文化祭では2巻「四ツ剣舞」という演目を披露しています。四人組でフォーメーションを組んで舞うのが難しいところです。保存会の皆様が稲刈りなどで忙しい時は、高学年が下学年に教えて引き継いでいます。

冬



ボランティアの皆さんによる法被づくりも毎年恒例となりました。



1月29日に岡方子どもサミットで、1月31日には升湯小学校へ交流に行き、互いの学習の成果を発表しました。



毎年地域の方と一緒に法被を作り足しています。その法被を着て、新年初の神楽を披露して他校と交流しています。

神楽保存会会長 清水浩幸さんのお話



私たちがそうだったように、子ども時代にこの神楽に関わって、舞や太鼓、笛を経験していることがとても大切だと思います。神楽を受け継ぐ次の世代の育成がとても大事です。そうした意味では、学校でも全校で取り組んでくれることはとてもありがたいです。

みなさんもいつか大人になって一度故郷を離れても、帰ってきたら、また私たちと一緒に活動してくれることを願っています。

子どもの声



升湯小学校との交流会では、お互いに総合学習の発表をしました。

私たちの学校は伝統ある「神楽」を受け継いでいますが、升湯小学校でも樽太鼓などの伝統をしっかりと受け継いでいてとても似ているなと思いました。また、発表にはクイズなども入っていて、発表方法にも学ぶことができました。



交流会に行き、互いのいいところや似ているところを見付けました。

升湯小の樽太鼓は迫力があって凄いなと思いました。僕たちの神楽も動きがあって長い舞を覚えているところをほめてもらいました。升湯にも、ぼくが住んでいる「三ツ屋」と同じ地名があると知りました。地名の由来に興味をもちました。